

第4章 計画推進の評価

第4章 計画推進の評価

1 各分野の評価方法

分野ごとに指標としている項目について、計画策定時の値と現状値を比較し、その達成状況により、下表のとおり5段階（A, B, C, D, E）で評価しました。また、指標以外の項目や、関連する調査・アンケートのデータの動向も踏まえ、分析・評価しました。

評価を踏まえ、今後重点的に取り組むべき課題を検討し、見直しを実施しました。

評価区分	策定時の値と現状値の比較
A	目標に達している
B	改善しているが、目標に達していない
C	変わらない (策定時と現状値の達成率が+5%~-5%)
D	悪化している
E	数値が出ていない、または把握方法が異なるため評価困難

※ 達成率 = (計画策定時の値 - 現状値) / (計画策定時の値 - 目標値)

2 各分野の中間評価・今後の課題

(1) 栄養・食育

(1)-1 栄養

【目標①：栄養バランスに気をつけよう

～くるくる回そう！食事バランスコマ*～】

市民の目標

まずは「栄養バランスに関心をもとう」

次に「バランスのよい食生活を実践しよう」

さらに「バランスのよい食生活をみんなに広げていこう」

計画策定時からの主な取組

●地域の取組

- ・バランスのよい食生活を意識し実践できるよう、地域や関連団体が、チラシ、ポスター等を利用し、普及・啓発を行いました。
- ・認定こども園・幼稚園・保育所、学校、公民館の教室や子育てサークル等で、すべての年代に「早寝早起き朝ごはん」の大切さや栄養バランスについて学ぶ機会を提供しました。
- ・健康教室や地域行事、文化祭では、主食・主菜・副菜をそろえる食事の大切さについて、食事バランスコマ等を用いて継続して啓発しました。
- ・認定こども園・幼稚園・保育所、学校の給食は、バランスのとれた食事の良い見本であり、献立表や食育だよりで家庭への情報発信を行いました。
- ・関係団体が協力し、働く世代の食生活の改善を図るため、職域・地域において、調理実習や講話を行いました。

●市の取組

- ・乳幼児期から壮年期に対して、ラジオや市広報等あらゆる機会を捉えて、「早寝早起き朝ごはん」、バランスのよい食生活、野菜料理の紹介等、普及・啓発しました。
- ・高齢者に対しては、低栄養予防のための食生活の実践について普及・啓発しました。
- ・地域で、正しい食生活や食育について啓発活動を行う食生活改善推進員・母子保健推進員を育成し、活動についての専門的な助言を実施しました。

中間評価

<評価指標の達成状況>

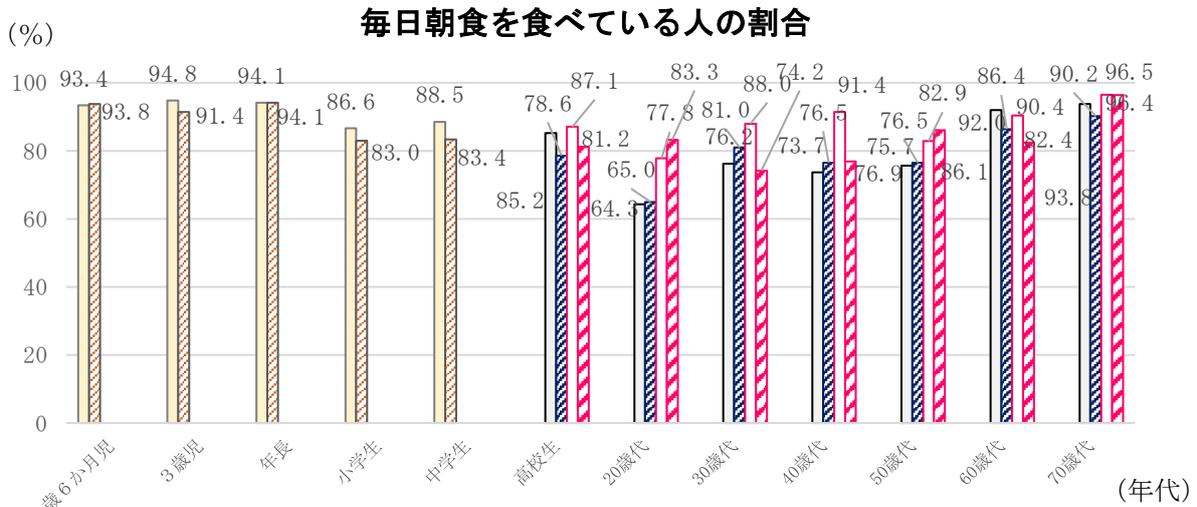
チェック項目（評価指標）		策定時 （平成26年度）	現状値 （令和元年度）	目標値 （令和7年度）	中間 評価	
1 朝食の摂取率の増加	小学5年生	86.6%	83.0%	100%	D	
	中学2年生	88.5%	83.4%		D	
	20歳代男性	64.3%	65.0%	80%	C	
	20歳代女性	77.8%	83.3%		A	
2 栄養バランス等に配慮した食生活を送っている人の割合の増加	20歳代男性	71.4%	15.0%	75%	D	
	20歳代女性	29.6%	25.0%		50%	D
	40歳代男性	21.1%	41.2%			B
	50歳代男性	21.6%	32.4%		B	
3 主食・主菜・副菜のそろった食事を1日2回以上食べる日が週に6日以上ある人の割合の増加	20歳代男性	35.7%	15.0%	40%	D	
	20歳代女性	22.2%	25.0%		B	
	40歳代男性	26.3%	35.3%		B	
	50歳代男性	43.2%	41.2%	50%	D	
4 1日に野菜を3皿以上食べる人の割合の増加	20歳代男性	35.7%	55.0%	40%	A	
	20歳代女性	29.6%	45.8%		A	
	40歳代男性	31.6%	32.4%		B	
	50歳代男性	18.9%	38.2%		B	
5 やまぐち健康応援団に登録している店舗・施設・事業所の増加	食と栄養によるまちづくりの分野の登録施設数	11施設 (H27.7.23)	15施設	20施設	B	

- *1～4は、平成26年度健やかほうふ21計画（第二次）策定のためのアンケート、
令和元年度健やかほうふ21計画（第二次）中間評価のためのアンケート
1の小学5年生、中学2年生は学校教育課資料（平成26年度、令和元年度アンケート）
*5は 山口県健康増進課調査

【評価ごと達成割合】

評価	項目数	割合
A (目標に達している)	3	17.7%
B (改善しているが、目標に達していない)	7	41.2%
C (変わらない)	1	5.9%
D (悪化している)	6	35.3%
E (設定した目標又は把握方法が異なるため評価困難)	0	—

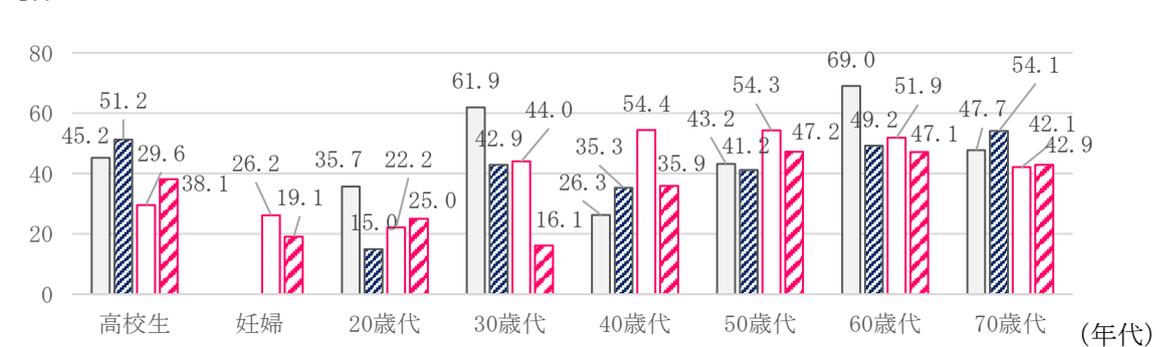
<その他関連する市民の現状>



□平成26年度 ■令和元年度 □男性 ■平成26年度 ■男性 ■令和元年度 □女性 ■平成26年度 ■女性 ■令和元年度

資料：1歳6か月児・3歳児健康診査受診票、学校教育課資料（食生活に関するアンケート）
平成26年度健やかほうふ21計画（第二次）策定のためのアンケート、
令和元年度健やかほうふ21計画（第二次）中間評価のためのアンケート

主食・主菜・副菜のそろった食事を1日2回以上食べる日が週に6日以上ある人の割合 (%)



□男性 ■平成26年度 ■男性 ■令和元年度 □女性 ■平成26年度 ■女性 ■令和元年度

資料：平成26年度健やかほうふ21計画（第二次）策定のためのアンケート、
令和元年度健やかほうふ21計画（第二次）中間評価のためのアンケート

<分析>

【改善傾向】

- ・〔指標〕朝食の摂取率の割合は、20歳代女性は増加し、目標値に達しています。
- ・〔指標〕栄養バランス等に配慮した食生活を送っている人の割合について、40歳代50歳代男性は増加しました。
- ・〔指標〕主食・主菜・副菜のそろった食事を1日に2回以上食べている人の割合は、20歳代女性、40歳代男性は増加しています。
- ・〔指標〕1日に野菜を3皿以上食べる人の割合は、すべての世代で増加し、20歳代男女は目標に達しています。

【維持または悪化傾向】

- ・〔指標〕朝食の摂取率について、子ども世代はやや減少し、目標の100%には至っていません。
- ・〔指標〕20歳代男性の朝食摂取率はほぼ変わらず、目標値とは大きく差があります。
- ・〔グラフ〕30歳代女性、40歳代女性の朝食摂取率は減少しています。
- ・〔グラフ〕主食・主菜・副菜のそろった食事を1日に2回以上食べている人の割合は、20歳代男性、妊婦、30歳代～60歳代女性で減少しています。また、全世代の中で男性では20歳代、女性では30歳代の値が一番低くなっています。

今後取り組むべき課題

- ・各団体が行ってきた食の取組は、今後も継続が必要です。
- ・30～40歳代女性は、自らの食事に目を向けにくい世代のようです。各団体に関わる世代へ向けた情報発信が、その家族やつながる方々までに届くような働きかけが必要です。
- ・20～30歳代は、子どもの頃に家庭や学校で学んだ知識や技術を学び直し、実践力を身に付けられるよう働きかけを考えます。
- ・元気な高齢期を迎えるために、40～50歳代へは、企業や各団体と連携した働きかけが必要です。

指標の見直し

- ・栄養バランス等に配慮した食生活を送っている人について、20歳代男性については他の世代の目標値と合わせます。

(1)-2 食育

【目標②：食への感謝を次の世代へつなげよう】

市民の目標

まずは「感謝の気持ちを込めて食事のあいさつをしよう」
次に「家族や仲間と一緒に食事を楽しもう」
そして「地元の旬の食材を食卓に取り入れよう」
さらに「食に関する生産体験活動をしよう」

計画策定時からの主な取組

●地域の取組

- ・食育に関心を持てるよう、地域や関連団体で、すべての世代にあらゆる機会を活用して、チラシ、ポスター等を利用した普及・啓発を行いました。
- ・認定こども園・幼稚園・保育所、学校では、食の生産活動体験や食の大切さについて学ぶ機会があり、継続して学習しています。毎日の給食は、食育の生きた教材であり、献立表や食育だよりを通じて家庭への情報発信も行いました。
- ・学校給食では、学校給食週間、地場産給食の日、委員会活動の取組において、旬の農産物や生産者の紹介等を行いました。
- ・地域の公民館活動や関係団体による調理体験、農漁業体験等を通して、食の大切さ、地産地消のすすめ、郷土料理の伝承を行いました。
- ・関係団体が連携して、地元の食材を使ったレシピの作成や勉強会を開催し、地産地消について普及啓発に取り組みました。
- ・地域の行事やサロンを通して、食育について学ぶ機会や仲間と一緒に楽しく食事する機会の提供を行いました。

●市の取組

- ・ラジオや市広報等で「食育の日（毎月19日）」「食育月間（6月）」を周知し、食事のマナーや楽しく食事をするについて啓発を行いました。
- ・健康教育や相談、各種教室の中で、食への感謝の心を持つことや共食することの大切さを伝え、家族や仲間と一緒に食事をする中で、親から子へ、次の世代へ食育がつながることを普及・啓発しました。
- ・食中毒予防方法や食品表示の見方等、食の安心・安全に関する正しい情報をリーフレットを活用して発信しました。
- ・地域で、正しい食生活や食育について啓発活動を行う食生活改善推進員・母子保健推進員を育成し、活動についての専門的な助言を実施しました。

中間評価

＜評価指標の達成状況＞

チェック項目（評価指標）		策定時 （平成26年度）	現状値 （令和元年度）	目標値 （令和7年度）	中間 評価
1 ほとんど毎日共食する人の割合（朝食）の増加	20歳代男性	25.0%	25.0%	35%	C
	30歳代男性	44.4%	9.5%		D
	40歳代男性	52.9%	32.4%		D
	50歳代男性	43.8%	35.3%		D
2 ほとんど毎日共食する人の割合（夕食）の増加	20歳代男性	55.6%	45.0%	65%	D
	30歳代男性	62.5%	38.1%		D
	40歳代男性	43.8%	55.9%	50%	A
	50歳代男性	41.9%	26.5%		D
3 食育に関心がある人の割合の増加	20歳代男性	57.1%	85.0%	70%	A
	20歳代女性	60.0%	83.3%		A
	30歳代男性	53.8%	81.0%		A
4 よくかんで味わって食べるなどの食べ方に関心のある人の割合の増加	成人	65.8%	63.8%	80%	D
5 地域の郷土料理を食べたり、地場産物を活用することを心がけている人の割合（いつも・ときどき）の増加	成人男性	40.6%	33.7%	50%	D
	成人女性	58.8%	51.9%	70%	D
6 「いただきます」、「ごちそうさま」のあいさつを心がけている人の割合（いつも・ときどき）の増加	20歳代男性	72.4%	53.8%	80%	D
	20歳代女性	70.6%	87.9%		A
	30歳代男性	71.9%	80.6%		A
7 箸の正しい持ち方を教えている人の割合の増加	年長児の保護者	84.6%	87.7%	95%	B

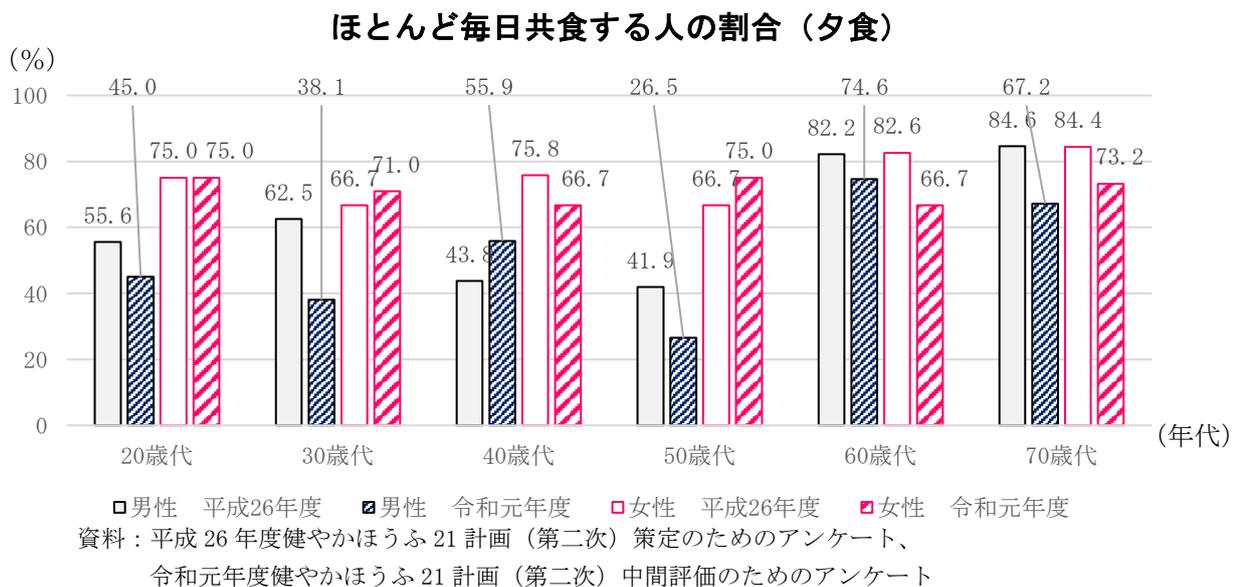
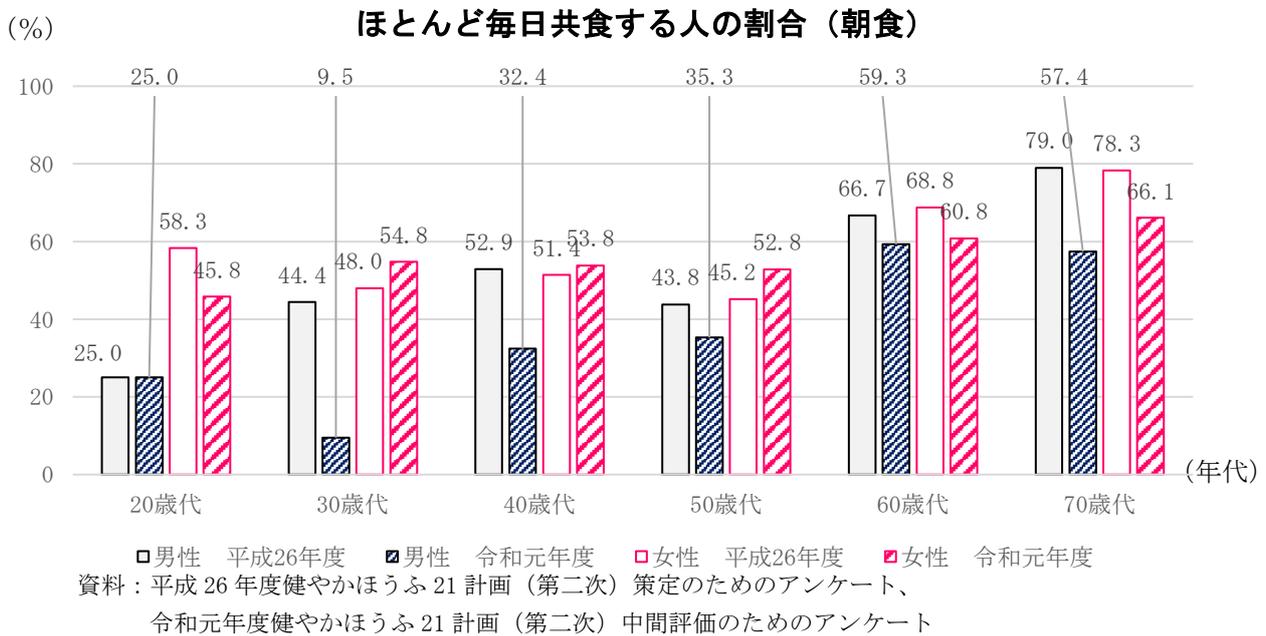
*1～4・7は、平成26年度健やかほうふ21計画（第二次）策定のためのアンケート、
令和元年度健やかほうふ21計画（第二次）中間評価のためのアンケート

*5・6は、平成26年度、平成29年度健康づくりに関する県民意識調査

【評価ごと達成割合】

評価	項目数	割合
A（目標に達している）	6	33.3%
B（改善しているが、目標に達していない）	1	5.6%
C（変わらない）	1	5.6%
D（悪化している）	10	55.6%
E（設定した目標又は把握方法が異なるため評価困難）	0	—

<その他関連する市民の現状>



<分析>

【改善傾向】

- ・〔指標〕ほとんど毎日共食する人の割合（夕食）では、40歳代男性が策定時より増加し、目標に達しています。
- ・〔指標〕食育に関心がある人の割合は、20歳代男女、30歳代男性で80%以上となり、目標に達しています。
- ・〔指標〕「いただきます」、「ごちそうさま」のあいさつを心がけている人の割合（いつも・ときどき）は、20歳代女性、30歳代男性で増加し、目標に達しています。

【維持または悪化傾向】

- ・〔グラフ〕ほとんど毎日共食する人（朝食）（夕食）の割合は、策定時より全体的に低下しており、ほぼすべての年代で男性は女性より割合が低くなっています。
- ・〔グラフ〕ほとんど毎日共食する人の割合（朝食）をみると、特に30歳代男性の割合が大幅に減少しています。
- ・〔指標〕よくかんで味わって食べるなどの食べ方に関心のある人の割合は、やや減少しました。

今後取り組むべき課題

- ・各団体が行ってきた食の取組は、今後も継続が必要です。それらを、親から子へ、次の世代へと伝えていくことの必要性を普及・啓発していきます。
- ・「食への感謝」や「あいさつ」「はしの持ち方」等は、家族や仲間と一緒に食事し、繰り返し行うことで身につくことから、コミュニケーションを図り楽しく食卓を囲むことをさらに啓発する必要があります。
- ・子育て中の親世代に対しては、家庭の中で子から親へと波及する効果を期待し、子どもに食育の大切さを伝えていく必要があります。

指標の見直し

- ・特に必要なし

(2) 歯と口の健康

【目標：歯の検診を定期的に受けよう】

市民の目標

まずは「歯と口の健康に関心をもとう」
次に「正しい歯みがき習慣を身につけよう」
そして「歯の検診を定期的に受けよう」

計画策定時からの主な取組

●地域の取組

- ・子育てサークル等で、歯と口の健康に関心がもてるよう、エプロンシアター等を活用した普及啓発を行いました。
- ・認定こども園・幼稚園・保育所、学校では、歯科検診にあわせ、保健だより等で知識の普及を行いました。
- ・小学校で、希望者に対してフッ素洗口を行いました。
- ・成人期における歯周病予防対策のため、一部の事業所では無料の歯科検診の機会を設け、歯科検診の受診を推進してきました。
- ・歯科医師会では、歯と口の健康週間に無料検診を実施しました。
- ・やまぐち健康経営認定企業^{*}において、歯科保健の取組項目を設けました。

●市の取組

- ・乳幼児期の健診において、かかりつけの歯科医をもつことの普及を行いました。
- ・乳幼児相談や健診において、歯科衛生士による歯磨き指導を実施しました。
- ・乳幼児相談において、子育て世代の母親に、自身の歯の健康に関心をもってもらおう、お母さんのための健康チェック（隔月）を行いました。
- ・母子手帳交付時に、歯の健康についての指導を強化しました。
- ・ラジオや市広報で歯科検診や歯磨きの大切さの普及啓発を行いました。

中間評価

＜評価指標の達成状況＞

チェック項目（評価指標）		策定時 (平成 26 年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和 7 年度)	中間 評価
1 むし歯(う歯)のある人の割合(処置完了者を含む。)の減少 ※策定値は平成 25 年度	1 歳 6 か月児	1.2%	1.3%	0%	D
	3 歳児	18.2%	14.1%	10%	B
	小学生	51.2%	43.9%	40%	B
	中学生	58.7%	36.4%	48%	A
2 歯ぐきが赤く腫れてぶよぶよしたり、歯を磨いた時に血が出ることもある人の割合の減少	小学生	2.0%	3.0%	0%	D
	中学生	7.6%	2.2%	5%	A
	高校生	6.8%	5.5%		B
	20 歳代	9.8%	9.1%		B
	40 歳代	13.0%	11.0%	10%	B
	60 歳代	7.8%	8.2%	5%	D
3 過去 1 年間に歯科検診を受診した人の割合の増加	妊婦	47.0%	34.7%	65%	D
	成人	48.8%	52.8%		B
4 そしゃく良好者(食事のとき何でもかめる人)の割合の増加	60 歳代	57.8%	59.1%	70%	B

*1 の 1 歳 6 か月児・3 歳児は、平成 25 年度、平成 30 年度「山口県の母子保健」

*1 の小・中学生、2 の小・中学生は、平成 25 年度、令和元年度「防府市児童生徒のからだ」

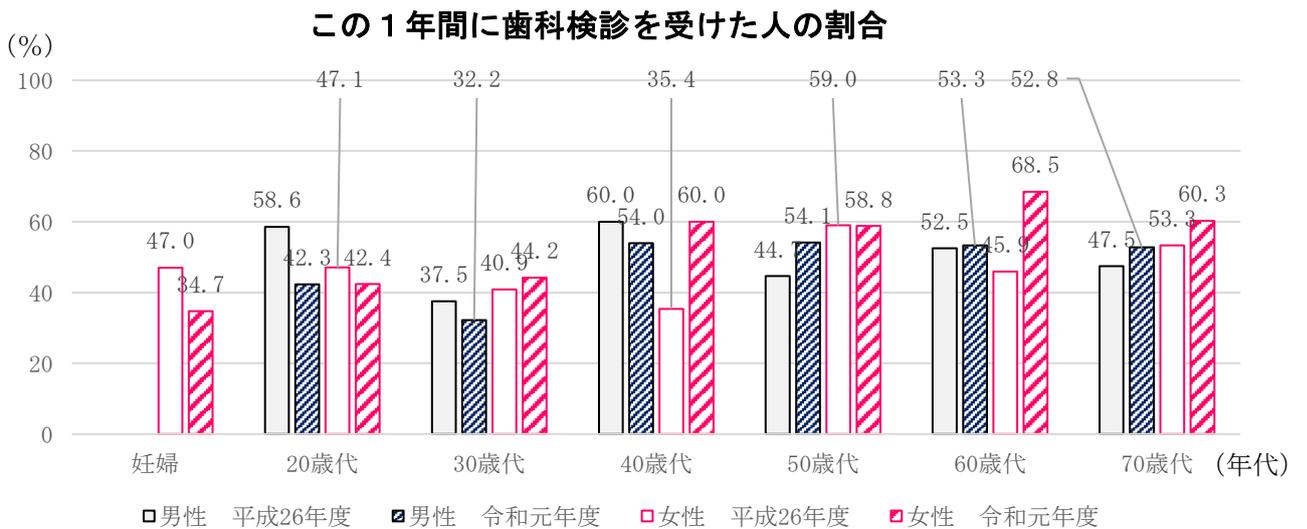
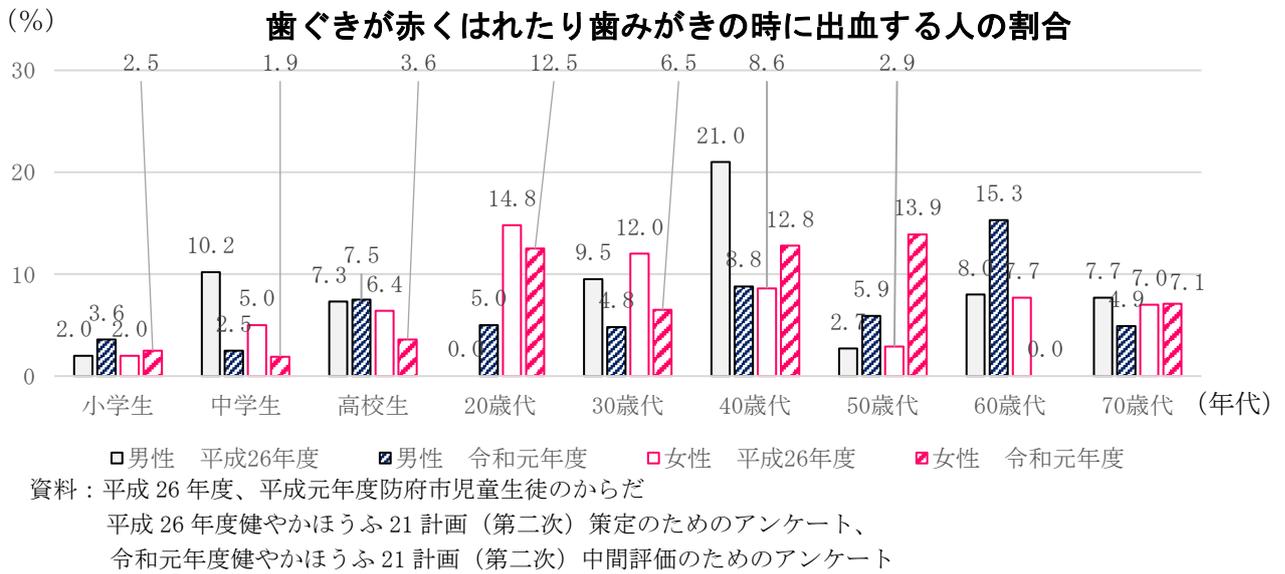
*2 の高校生～60 歳代、3 の妊婦、4 は、平成 26 年度健やかほうふ 21 計画(第二次)策定のためのアンケート、令和元年度健やかほうふ 21 計画(第二次)中間評価のためのアンケート

*3 の成人は、平成 26 年度、平成 29 年度健康づくりに関する県民意識調査

【評価ごと達成割合】

評価	項目数	割合
A (目標に達している)	2	15.4%
B (改善しているが、目標に達していない)	7	53.9%
C (変わらない)	0	0 %
D (悪化している)	4	30.8%
E (設定した目標又は把握方法が異なるため評価困難)	0	—

<その他関連する市民の現状>



<分析>

【改善傾向】

- ・〔指標〕中学生は、むし歯（う歯）のある人の割合と歯ぐきが赤く腫れてぶよぶよしたり、歯を磨いた時に血が出る人がいる割合ともに減少し、目標にも達しています。
- ・〔指標・グラフ〕過去1年間に歯科検診を受診した人の割合をみると、成人全体の歯科受診した人の割合は増加しました。中でも40歳代女性と、60歳代女性については、大幅に増加しています。

【維持または悪化傾向】

- ・〔グラフ〕歯ぐきが赤く腫れてぶよぶよしたり、歯を磨いた時に血が出る人がいる割合をみると、20歳代男性、40～50歳代女性、60歳代男性は増加しています。
- ・〔グラフ〕過去1年間に歯科検診を受診した人の割合をみると、妊婦、20歳代男女、30～40歳代の男性で減少しています。

今後取り組むべき課題

- ・妊婦、働く世代の歯科検診率の増加へ向けた取組が必要です。歯科検診の機会がない世代（妊婦、働く世代、子育て世代）が、自分で歯の健康を意識するため、関係団体で実施している歯に関する取組を周知する等働きかけが大切です。

指標の見直し

- ・特に必要なし

(3)身体活動・運動

【目標：いつでもどこでも体を動かそう】

市民の目標

まずは「体を動かすことの大切さを知ろう」
次に「生活の中で、体を動かすように心かけよう」
さらに「仲間や家族と一緒に体を動かそう」

計画策定時からの主な取組

●地域の取組

- ・各関係団体が、地域の活動や集いの場で、各世代に応じて、楽しく体を動かすとともに、運動の大切さを伝えました。
- ・地域の行事や集いの場で、簡単にできる体操を取り入れました。
- ・ウォーキング大会を開催し、体を動かす機会を提供しました。
- ・市や関係団体が、世代に応じた運動・スポーツ(グラウンドゴルフやペタンク、バレーボール、キックベースボール等)のイベントを開催しました。
- ・各関係団体や事業所等が、山口県公式ウォーキングアプリやまぐち健幸アプリを活用し、仲間とともに楽しく体を動かす機会を提供しました。
- ・親子で楽しく体を動かせる体操を考え、場や機会を提供しました。

●市の取組

- ・市広報やホームページ、ラジオ、各種保健事業の場を通して、運動の効果や、気軽に取組める体操についての情報提供や、日常生活の中で体を動かすことの大切さについて普及啓発を行いました。
- ・運動やスポーツに関心を持ち、継続的に取り組んでもらうため、各種スポーツイベントや運動に関する教室を開催しました。
- ・山口県公式ウォーキングアプリやまぐち健幸アプリを活用し、市民が仲間と楽しく運動に取り組めるよう普及啓発に努めました。

中間評価

＜評価指標の達成状況＞

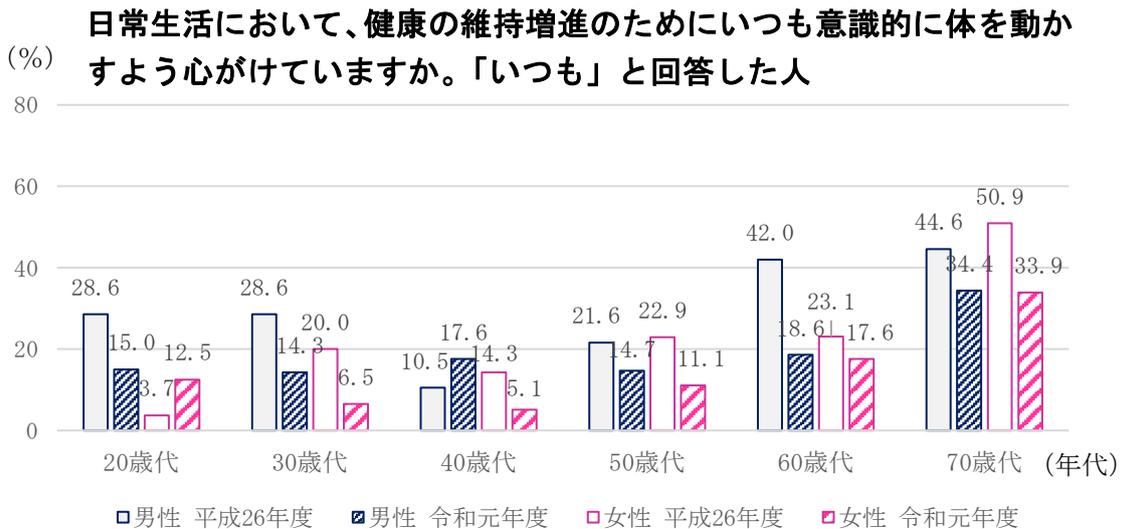
チェック項目（評価指標）		策定時 （平成26年度）	現状値 （令和元年度）	目標値 （令和7年度）	中間 評価
1 普段運動不足を感じている人の割合の減少	20歳代女性	77.8%	79.2%	60%	D
	30歳代女性	76.0%	77.4%		D
	40歳代男性	68.4%	67.6%		B
	40歳代女性	85.7%	76.9%		B
	50歳代男性	73.0%	61.8%		B
2 日常生活において、健康の維持・増進のためにいつも意識的に体を動かすように心がけている人の割合の増加	20歳代女性	3.7%	12.5%	50%	B
	30歳代女性	20.0%	12.5%		D
	40歳代男性	10.5%	11.6%		C
	40歳代女性	14.3%	5.1%		D
	50歳代男性	21.6%	14.7%		D
3 1日30分以上の、軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上継続して実施している人の割合の増加	20歳代女性	3.7%	12.5%	20%	B
	30歳代女性	8.0%	12.9%		B
	40歳代男性	31.6%	23.5%	40%	D
	40歳代女性	5.7%	10.3%	15%	B
	50歳代男性	35.1%	26.5%	45%	D
4 ロコモ該当者の割合の減少	40歳代男性	13.3%	10.8%	10%	B
	40歳代女性	22.9%	15.0%	15%	A
	50歳代男性	21.1%	29.7%		D
	50歳代女性	21.3%	27.5%	D	
	60歳代男性	27.1%	17.8%	20%	A
	60歳代女性	26.2%	35.2%		D
	70歳代男性	41.0%	49.1%	35%	D
	70歳代女性	54.7%	54.4%	50%	B
5 やまぐち健康応援団に登録している店舗・施設・事業所の増加	身体活動・運動による健康のまちづくりの分野の登録施設数	0施設 （平成27年7月23日現在）	0施設	3施設	C

- *1～3 は、平成26年度健やかほうふ21計画（第二次）策定のためのアンケート
令和元年度健やかほうふ21計画（第二次）中間評価のためのアンケート
- *4 は、平成26年度、平成29年度健康づくりに関する県民意識調査
- *5 は、県健康増進課調査

【評価ごと達成割合】

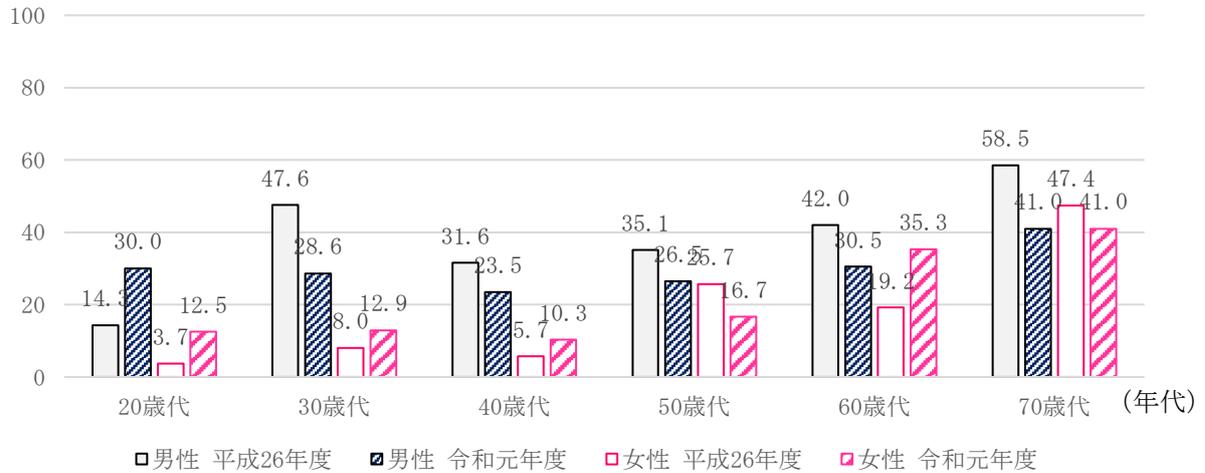
評価	項目数	割合
A（目標に達している）	2	8.3%
B（改善しているが、目標に達していない）	9	37.5%
C（変わらない）	2	8.3%
D（悪化している）	11	45.8%
E（設定した目標又は把握方法が異なるため評価困難）	0	—

<その他関連する市民の現状>



資料：平成26年度健やかほうふ21計画（第二次）策定のためのアンケート
令和元年度健やかほうふ21計画（第二次）中間評価のためのアンケート

1日30分以上の、軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上継続して実施している人の割合



資料：平成26年度健やかほうふ21計画（第二次）策定のためのアンケート
令和元年度健やかほうふ21計画（第二次）中間評価のためのアンケート

<分析>

【改善傾向】

- ・〔指標〕 普段運動不足を感じている人の割合をみると、40歳代男女、50歳代男性で減少しています。
- ・〔指標〕 日常生活において、健康の維持・増進のためにいつも意識的に体を動かすように心がけている人の割合は、20歳代女性で増加しています。
- ・〔指標〕 1日30分以上の、軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上継続して実施している人の割合は、20～40歳代女性で増加しています。

【維持または悪化傾向】

- ・〔指標〕 普段運動不足を感じている人の割合は20歳代女性、30歳代女性で増加しました。
- ・〔グラフ〕 日常生活において、健康の維持・増進のためにいつも意識的に体を動かすように心がけている人の割合は、20歳代女性、40歳代男性以外、すべての世代・男女ともに減少しました。
- ・〔グラフ〕 1日30分以上の、軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上継続して実施している人の割合は、30～70歳代までのすべての世代の男性で減少しました。女性は50歳代が減少しています。

今後取り組むべき課題

仕事や子育てで忙しい世代が、日常生活において意識的に体を動かすことができるよう、環境整備やしかけ作り等様々な取組を検討していく必要があります。また、地域や職場で仲間と一緒に取組めるよう、関係機関や職域との連携が大切です。

指標の見直し

- ・「山口県公式ウォーキングアプリやまぐち健幸アプリ」の登録者数、企業登録数を追加します。

(4)日頃の健康管理

【目標：声をかけ合ってケンシンを受けよう】

市民の目標

- まずは「日頃の自分の体の状態を知ろう」
- 次に「定期的にケンシンを受けよう」
- そして「ケンシンの結果をいかそう」
- さらに「家族や友人に、ケンシンの大切さを伝えよう」

計画策定時からの主な取組

●地域の取組

- ・公民館、医療関係機関、市内のスーパー、関係団体では、ケンシンに関するチラシ・ポスターにて、普及・啓発を行いました。
- ・医師会、歯科医師会、薬剤師会主催による三師会フォーラムでがんをテーマに取り上げ、がん検診の普及・啓発を行いました。
- ・薬剤師会主催による薬と健康フェアを開催し、自分の体の状態を知る機会の提供を行いました。
- ・認定こども園・幼稚園・保育所、学校では、自分の体を知ることや、ケンシンの大切さについて学ぶ機会を提供しました。
- ・学校では、学校保健委員会等を通じて、子どもと保護者に対して健康について学ぶ場を提供しました。
- ・推進委員自身がケンシンの必要性について知り、自らケンシンを受け、地域や所属団体・職場において検診に関する話題の提供や、ケンシン受診について声かけを行いました。

●市の取組

- ・市広報やホームページ、ラジオ等様々な機会を利用して、自分の体の状態を知ることの大切さや、ケンシンの必要性について普及・啓発を行いました。
- ・地域における健康教育や保健事業の中で、血圧測定や骨密度測定、体力チェック等を実施し、自分の体の状態を知る機会を設けました。
- ・乳幼児相談で、希望者に母親の健康チェックを実施しました。
- ・複数のがん検診を同時に受けることができる総合がん検診を実施し、がん検診を受けやすい体制を整備しました。
- ・総合がん検診では、全国健康保険協会山口支部や保険年金課と連携し、健康診査とがん検診を同時に受けられる機会を提供しました。
- ・健康マイレージ事業*を導入し、楽しみながら検診を受けることができるよう

に内容の充実に努めました。

中間評価

<評価指標の達成状況>

チェック項目（評価指標）		策定時 （平成 26 年度）	現状値 （令和元年度）	目標値 （令和 7 年度）	中間 評価
1 健康診査受診率の向上	60 歳代男性	68.0%	74.6%	80%	B
	60 歳代女性	46.2%	56.9%	80%	B
2 特定健康診査*受診率の向上		29.0% (5,736 人) (平成 25 年度)	28.9% (5,018 人) (平成 30 年度)	60%	C
3 特定保健指導*実施率の向上		3.5% (平成 25 年度)	11.5% (平成 30 年度)	60%	B
4 各種がん検診の受診率 （全世代）の向上	胃がん検診 （胃エックス線） （胃内視鏡）	4% (1,413 人)	3.5% 胃エックス線 (1,001 人) 胃内視鏡 (336 人)	20%	E
	肺がん検診	5.7% (2,019 人)	2.7% (1,913 人)	20%	E
	大腸がん検診	6.3% (2,230 人)	3.5% (2,490 人)	20%	E
	子宮がん検診	24.8% (3,393 人)	14.1% (3,671 人)	40%	E
	乳がん検診	18.4% (2,327 人)	10.3% (2,055 人)	40%	E

*1 は、平成 26 年度健やかほうふ 21 計画（第二次）策定のためのアンケート
令和元年度健やかほうふ 21 計画（第 2 次）中間評価のためのアンケート

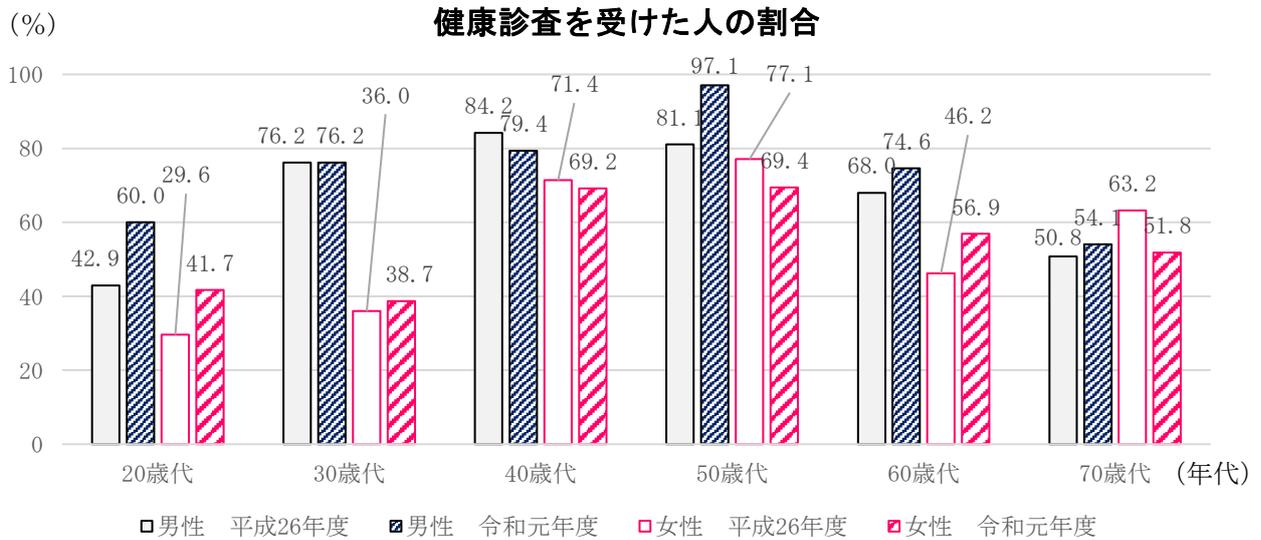
*2、3 は特定健診等データ管理システム

*4 は、平成 26 年度、平成 30 年度度地域保健・健康増進事業報告

【評価ごとの達成割合】

評価	項目数	割合
A（目標に達している）	0	—
B（改善しているが、目標に達していない）	3	33.3%
C（変わらない）	1	11.1%
D（悪化している）	0	—
E（設定した目標又は把握方法が異なるため評価困難）	5	55.0%

<その他関連する市民の現状>



資料：平成26年度健やかほうふ21計画（第二次）策定のためのアンケート

令和元年度健やかほうふ21計画（第二次）中間評価のためのアンケート

<分析>

【改善傾向】

- ・〔グラフ〕 健診を受けた人の割合は、20歳代男女、30歳代女性、60歳代女性、50～70歳代男性で増加しています。
- ・〔指標〕 特定保健指導実施率は増加していますが、目標には達していません。

【維持または悪化傾向】

- ・〔指標〕 特定保健指導実施率はほぼ変わらず、目標値とは大きく差があります。
- ・〔指標〕 各種がん検診の受診率は、国の算出方法が変更になったため比較できません。受診者数で見ると、大腸がん検診、子宮がん検診は増加しているものの、それ以外は減少しています。
- ・〔グラフ〕 健診を受けた人の割合を全世代の中でみると、40～50歳代に比べ、20歳代男女、30歳代女性、60歳代女性、70歳代男女が、低くなっています。

今後取り組むべき課題

- ・生活習慣病予防のため、特定健康診査受診率、さらに特定保健指導実施率を向上させる取組を積極的に行う必要があります。
- ・各種がん検診受診率が低いため、今後もケンシン受診の機会を周知し、受診のきっかけをつくる取組を行う必要があります。
- ・ケンシンの機会が減る20～30歳代と60～70歳代が、日ごろから自分の体の状態を知ったり、ケンシンを受診する大切さやその方法について意識づくで

きるよう、様々な機会を捉えて伝えていきます。全国健康保険協会山口支部や各企業の健康保険組合との連携も大切です。

- ・市民が健康マイレージ事業や山口県公式ウォーキングアプリ健幸アプリを活用し、健康管理に取り組むことができるよう、さらに内容の充実や推進を図る必要があります。

指標の見直し

- ・がん検診の受診率については、国の算出方法が変更になったため、今回は受診率では評価できませんでした。また、目標値も変更します。

(5)喫煙

【目標：将来たばこを吸わない若者を育てよう】

市民の目標

- まずは「たばこの害を理解しよう」
- 次に「自分自身、周り人のために禁煙しよう」
- さらに「周りの人にもたばこの害を伝えよう」

計画策定時からの主な取組

●地域の取組

- ・学校、学校薬剤師会が連携し、学校教育において子どもたちへたばこの害について伝えました。将来、喫煙の誘いがあった場合に断る方法についても具体的に伝えました。
- ・防府医師会、歯科医師会、薬剤師会主催による三師会フォーラムで禁煙をテーマとして開催し、市民にたばこの害と禁煙方法についての周知を行いました。
- ・職場や地域で、受動喫煙防止のための環境を整えました。
- ・医療機関において、禁煙外来による支援を行いました。

●市の取組

- ・正しい知識の普及・啓発を行うため、市広報、ラジオ等で広く市民に周知しました。また、ポスターやパンフレットを公民館や市役所に設置し、周知しました。
- ・妊婦やそのパートナーに対しては妊娠届出時、子育て世代に対しては乳幼児相談や、幼児健診の際に、たばこの害に関する正しい知識の普及・啓発を行いました。

中間評価

＜評価指標の達成状況＞

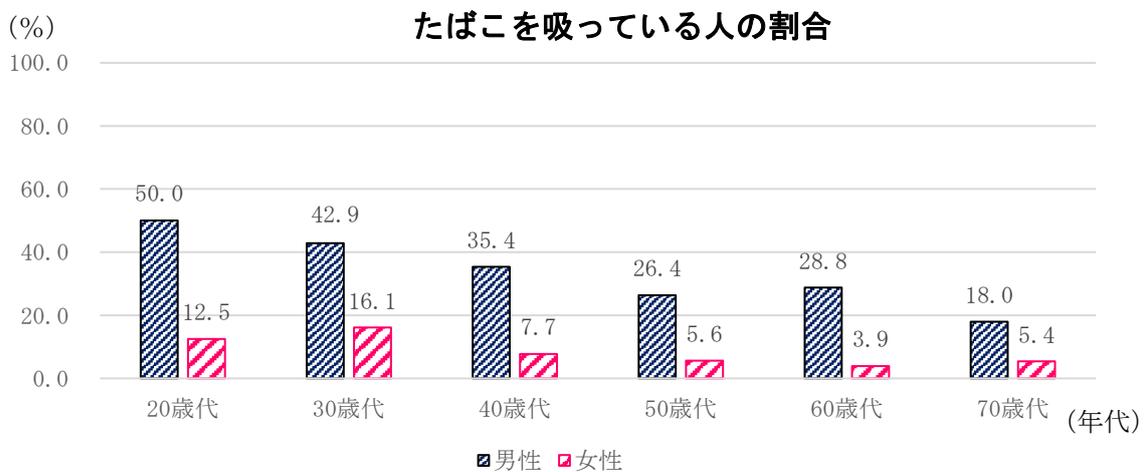
チェック項目（評価指標）		策定時 （平成26年度）	現状値 （令和元年度）	目標値 （令和7年度）	中間 評価
1 たばこの害を知っている人の割合の増加	小学5年生	78.4%	75.5%	100%	D
	中学2年生	93.1%	93.9%		B
	高校2年生	96.5%	97.6%		B
2 将来たばこを吸いたいと思う人の割合の減少	小学5年生	10.2%	9.8%	0%	C
	中学2年生	19.1%	6.9%	10%	A
	高校2年生	15.6%	5.3%	5%	B
3 喫煙したことがある人の割合の減少	中学2年生	3.1%		0%	E
	高校2年生	3.6%			E
4 現在たばこを吸っている人の割合（毎日・時々吸う）	男性	32.9%	30.0%	15%	B
	女性	8.4%	7.6%	2%	B
5 妊娠中に喫煙している人の割合の減少	妊婦	3.3%	3.4%	0%	C
6 禁煙したいと思う人の割合の増加	成人	21.7%	26.2%	30%	B
7 最近1か月の間に受動喫煙の機会があった人の割合減少	職場	10.3%	14.8%	0%	D
	家庭	10.0%	7.6%	3%	B
	飲食店	1.6%	1.1%	1%	B
8 COPD※を知っている人の割合の増加	成人	15.6%	18.5%	50%	B
9 やまぐち健康応援団に登録している店舗・施設・事業所の増加	社会環境の整備による健康のまちづくりの分野・たばこ対策の実施の登録施設数	51施設 (平成27年7月23日現在)	57施設	70施設	B

*1,2は、平成26年度健やかほうふ21計画（第2次）策定のためのアンケート
 令和元年度健やかほうふ21計画（第2次）中間評価のためのアンケート
 3,4,6～8は、平成26年度、平成29年度健康づくりに関する県民意識調査
 5は、防府市妊娠届出書
 9は、県健康増進課調査

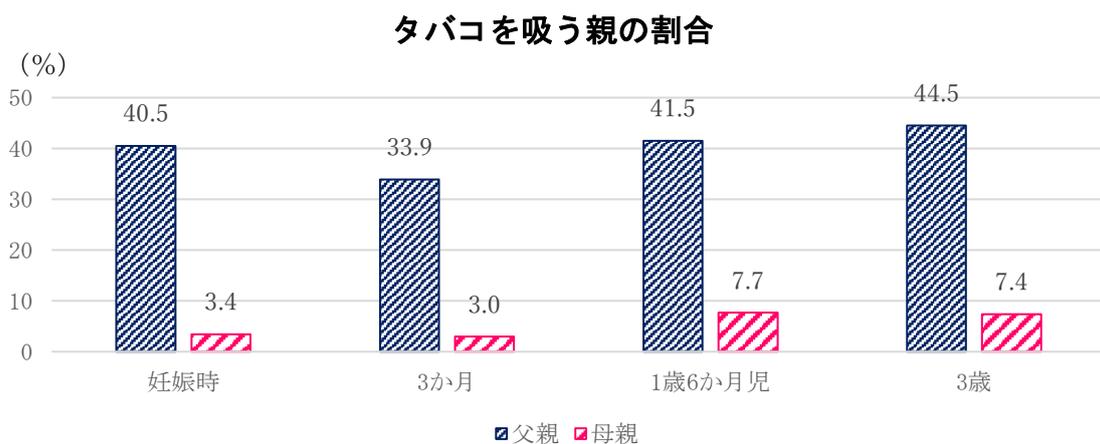
【評価ごとの達成割合】

評価	項目数	割合
A (目標に達している)	1	5.9%
B (改善しているが、目標に達していない)	10	58.9%
C (変わらない)	2	11.8%
D (悪化している)	2	11.8%
E (設定した目標又は把握方法が異なるため評価困難)	2	11.8%

<その他関連する市民の現状>



資料：令和元年度健やかほうふ21計画（第二次）中間評価のためのアンケート



資料：平成元年度妊娠届、乳児健診票、1歳6か月児健康診査票、3歳児健康診査票

<分析>

【改善傾向】

- ・〔指標〕 たばこの害を知っている人の割合は、策定時に比べ、中・高校生ではやや増加しています。
- ・〔指標〕 将来たばこを吸いたいと思う人の割合は、中・高校生では約10ポイント減少し、中学生では目標を達成、高校生では目標に大きく近づいています。
- ・〔指標〕 喫煙している人で、禁煙したいと思っている人の割合は増加しています。

【維持または悪化傾向】

- ・〔指標〕 小学生においては、たばこの害を知っている人の割合は減少し、将来たばこを吸いたいと思う人の割合は依然として1割程度います。
- ・〔指標〕 妊娠中にたばこを吸っている人の割合は、ほぼ変わりません。
- ・〔指標〕 受動喫煙の機会があった人の割合は、職場では増加しています。
- ・〔グラフ〕 たばこを吸っている人の割合をみると、20歳代男性が50.0%と一番高いです。
- ・〔グラフ〕 子育て中の親の喫煙率は高く、4割程度の父親がたばこを吸っています。

今後取り組むべき課題

- ・発達段階に応じた子どもへの喫煙防止教育は引き続き実施する必要性があり、その際大人になって誘いを断る方法についても引き続き教える必要があります。
- ・妊婦の喫煙率は変わらず、子育て世代の親の喫煙率は高いことから、妊娠期から、たばこの害や禁煙方法、禁煙外来の利用について等、具体的な情報提供をし、禁煙の促進に努める必要があります。
- ・健康増進法に基づき、望まない受動喫煙の防止に関する取り組みを周知し、職場等各施設の受動喫煙防止対策の実施を推進する必要があります。

指標の見直し

- ・中高生の喫煙率については削除します。
- ・健診時の両親の喫煙率についての指標を追加します。

(6)こころの健康

(6)-1 親のこころ、子のこころ

【目標：安心して子育てができるように応援しよう】

市民の目標

まずは「こどもの声に耳を傾けよう」

次に「子育てについて相談できる人や場所を持とう」

さらに「地域や家族で支え合って子育てしよう」

これまでの主な取組

●地域の取組

- ・母子保健推進員や民生委員が、地域で親子を見守る活動を行い、相談窓口の普及・啓発を行いました。
- ・各団体が、子育てサークルやサロン、子育て支援センター等親子で集える場への参加を呼びかけました。
- ・認定こども園・幼稚園・保育所、子育て支援センターでは、園庭開放やサロンを開催し、子育て中の親子を孤立させない場の提供を行いました。
- ・認定こども園・幼稚園・保育所、学校において、保護者の子育てに関わる相談支援を行いました。

●市の取組

- ・市広報やホームページ、子育て応援サイト、子育て情報マップ等で子育てに関する様々な情報の提供を行いました。
- ・子育てサークルや乳幼児相談、家庭教育学級や就学时子育て相談会、健康教育等で、親子のコミュニケーションの大切さや愛情を伝えることの必要性を普及・啓発しました。
- ・妊娠届出時の面接や乳幼児相談、幼児健診、家庭訪問、電話相談により、不安や悩みを聴き、支援しました。
- ・子育て世代包括支援センター「子育て応援室まんまるほうふ」を開設し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制を整備しました。
- ・子育てに関わる医療機関や保育園・幼稚園・学校、子育て支援センター等と連携し、地域で育児しやすい環境づくりに努めました。
- ・仕事と育児の調和がとれるよう事業所と連携し、地域で育児しやすい環境づくりに努めました。

評価指標の達成状況

チェック項目（評価指標）		策定時 (平成26年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)	中間評価
1 主体的に育児に関わっている父親の割合の増加（父親が回答）	乳児の父親	65.1%	62.5%	70%	D
	年長児の父親	50.6%	52.5%		B
2 家族みんなで過ごす時間を持つように心がけている父親の割合の増加（父親が回答）	乳児の父親	86.7%	80.6%	90%	D
	年長児の父親	69.3%	73.8%		B
3 子どもを感情的に怒ってしまうことがある母親の割合の減少※「よくある」と回答した人	1歳6か月児の母親	9.8%	1.3%	5%	A
	年長児の母親	15.4%	13.6%		B
4 子どもを虐待していると思うことがある親の割合の減少	3歳児の親	4.1%	3.5%	0%	B
	年長児の親	4.8%	5.3%		D
5 子どもに育てにくさを感じたときに相談先を知っているなどの、解決方法を知っている母親の割合の増加	乳児の母親	100.0%	70.0%	100%	D
	3歳児の母親	83.7%	90.0%		B
	年長児の母親	78.8%	85.4%		B
6 必要時に子どもを預かってくれる人がいる母親の割合の増加	乳児の母親	86.7%	90.3%	90%	A
	3歳児の母親	86.5%	83.7%		D
	年長児の母親	85.7%	85.7%		C
7 今後もこの地域で子育てをしていきたいと思う母親の割合（そう思う、どちらかといえばそう思う）の増加	乳児の母親	92.8%	94.4%	95%	B
	3歳児の母親	92.6%	92.2%		D
	年長児の母親	93.1%	93.9%		B

*平成26年度健やかほうふ21計画（第二次）策定のためのアンケート

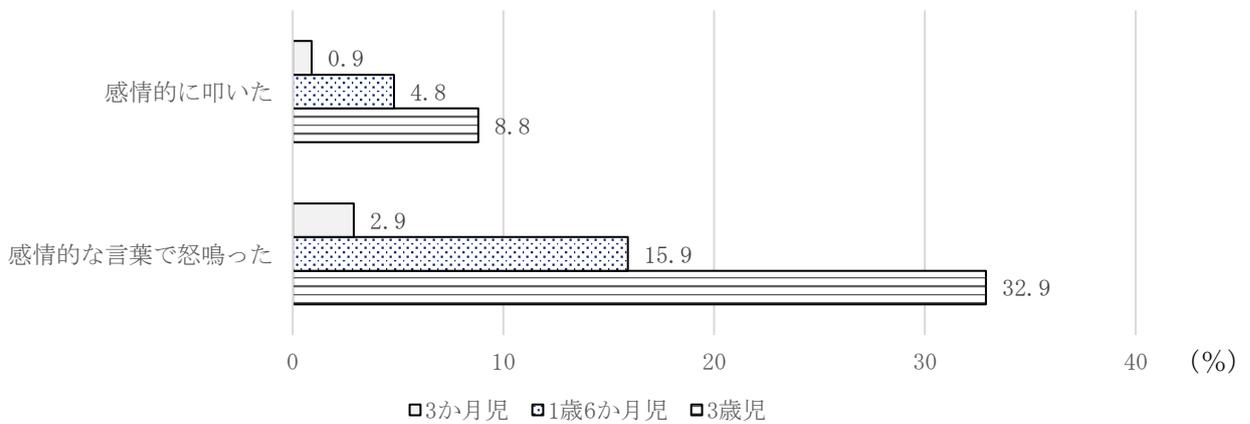
令和元年度健やかほうふ21計画（第二次）中間評価のためのアンケート

【評価ごとの達成割合】

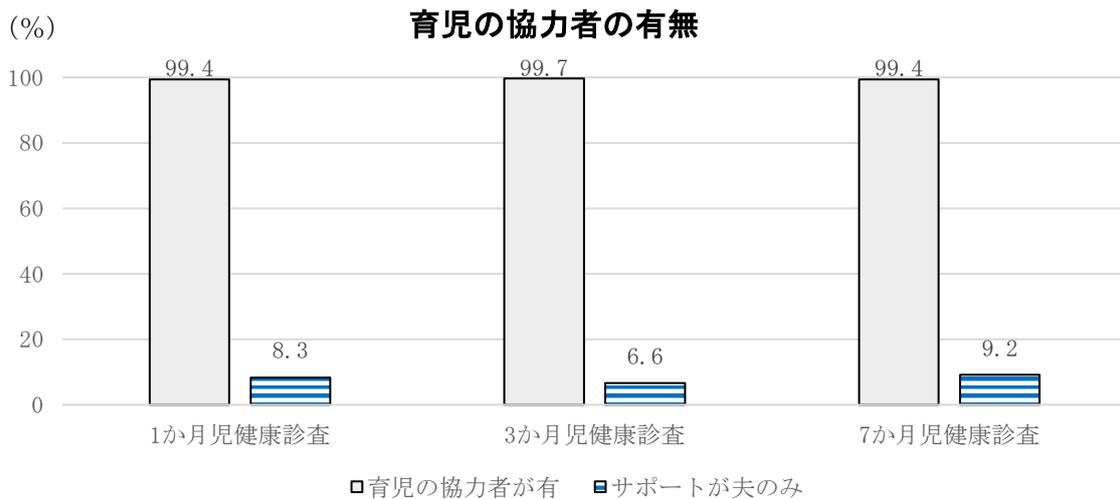
評価	項目数	割合
A (目標に達している)	2	11.8 %
B (改善しているが、目標に達していない)	8	47.1 %
C (変わらない)	1	5.9 %
D (悪化している)	6	35.3 %
E (設定した目標又は把握方法が異なるため評価困難)	0	—

<その他関連する市民の現状>

感情的に叩く、怒鳴ると答えた母親の割合



資料：3か月児健康診査票、1歳6か月児健康診査受診票、3歳児健康診査受診票



資料：1か月児健康診査票、3か月児健康診査票、7か月児健康診査票

<分析>

【改善傾向】

- ・〔指標〕感情的に怒ってしまうことがある母親の割合は、1歳6か月児、年長児ともに減少しており、1歳6か月児は目標に達しています。
- ・〔指標〕子どもに育てにくさを感じたときに相談先を知っているなどの、解決方法を知っている母親の割合は、3歳児の母親、年長児の母親で増加しています。
- ・〔指標〕必要時に子どもを預かってくれる人がいる母親の割合は、乳児の母親で増加し、目標に達しています。

【維持または悪化傾向】

- ・〔指標〕主体的に育児に関わっていると思う父親と家族みんなで過ごす時間を持つように心がけている父親の割合は、乳児の父親で減少しました。
- ・〔指標〕子どもを虐待していると思うことがある親の割合は、年長児の親で増加しました。
- ・〔指標〕子どもに育てにくさを感じたときに相談先を知っているなどの、解決方法を知っている母親の割合は、乳児の母親で減少しています。
- ・〔指標〕必要時に子どもを預かってくれる人がいる母親の割合は、3歳児の母親で減少し、年長児の母親では横ばいでした。
- ・〔グラフ〕感情的に叩いた、感情的な言葉で怒鳴ったと答えた母親の割合は、子どもの年齢が上がるにつれて増加しています。

今後取り組むべき課題

- ・防府市は転出入者が多く、知らない土地での子育ては不安・ストレス共に高まる可能性があります。子育て中の親が孤立せず、安心して子育てができるように、妊娠中から機会をとらえ、相談機関や地域の社会資源について、さらに普及・啓発していきます。
- ・子どもとの具体的な関わり方等を、あらゆる機会をとらえて伝えていく必要があります。

指標の見直し

- ・5については、同じ項目で、より現状に近い状態の把握が可能である乳幼児健診の問診へ、出典を変更します。ほぼ全数の把握が可能である乳幼児健診の問診より数を抽出します。
- ・相談場所の利用状況を示すため、健康増進課での「妊娠中から子育て中の親等からの相談件数」を追加します。

(6)ー2 みんなのころ

【目標：お互いに思いやりころの健康を守ろう】

市民の目標

まずは「自分の心の状態をチェックしよう」

次に「自分に合うストレスへの対応方法を見つけよう」

そして「相談できる人や場所を持ちましょう」

さらに「悩みを抱えている人に“気づき”“声かけ”をしてみましょう」

計画策定時からの主な取組

●地域の取組

- ・働く世代への取組として、商工会議所が市と連携し、ゲートキーパー養成講座を開催しました。
- ・社会福祉協議会が経済的に困窮し生活に困っている人への自立支援を行う、「防府市自立相談支援センター」を開設しました。
- ・従業員の健康を最大の財産と捉え、健康経営を実践する企業の増加により、メンタルヘルスへの取組が推進されています。

●市の取組

- ・一般市民や各関係団体、小中学校教員を対象に、ゲートキーパー養成講座を開催しました。
- ・学校や職域と連携し、講演会を行いました。
- ・9月の自殺予防週間、3月の自殺対策強化月間にあわせて、市広報やホームページ、ラジオで、心の健康に関する普及・啓発を行いました。
- ・各関係機関の窓口等に啓発用カードやリーフレット、ポケットティッシュを設置し、相談機関の情報や心の健康について、普及・啓発を行いました。
- ・関係各課・関係機関と連携し、社会問題となっている自殺を予防するため、防府市自殺対策計画を策定しました。

中間評価

<評価指標の達成状況>

チェック項目（評価指標）			策定時 (平成 26 年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和 7 年度)	中間 評価
1 自分なりのストレス 解消法を持っている 人の割合の増加	20 歳代	男性	86.2%	85.0%	90%	D
	20 歳代	女性	76.5%	83.3%	80%	A
	30 歳代	男性	87.5%	71.4%	90%	D
	30 歳代	女性	59.1%	61.3%	70%	B
	40 歳代	男性	56.7%	82.4%	70%	A
	40 歳代	女性	75.0%	64.1%	80%	D
	50 歳代	男性	68.4%	73.5%	80%	B
	50 歳代	女性	77.0%	77.8%		B
2 困った時に相談でき る人のいる割合の 増加（男性）	中学生		71.4%	72.3%	80%	B
	高校生		68.9%	67.5%		D
	40 歳代		68.4%	73.5%		B
	50 歳代		67.6%	61.8%		D
3 心の悩みについて相 談できる窓口を知 っている人の割合 の増加	成人		31.6%	28.8%	50%	D
4 自分のことが好き、 まあまあ好きな人の 割合の増加	中学生	男子	53.0%	61.5%	60%	A
	中学生	女子	47.8%	49.7%	60%	B
	高校生	男子	52.9%	49.8%	60%	D
	高校生	女子	35.4%	42.2%	45%	B
5 ゲートキーパー（コ コロぽっとサポータ ー）を養成している ことを知っている人 の割合の増加	成人		8.7%	8.3%	50%	C
6 ゲートキーパー（ココロぽっとサポータ ー）養成講座を受講した人の増加			320 人	1,075 人	1,000 人	A
			（平成 23～26 年度累計）	（令和元年 12 月末）		

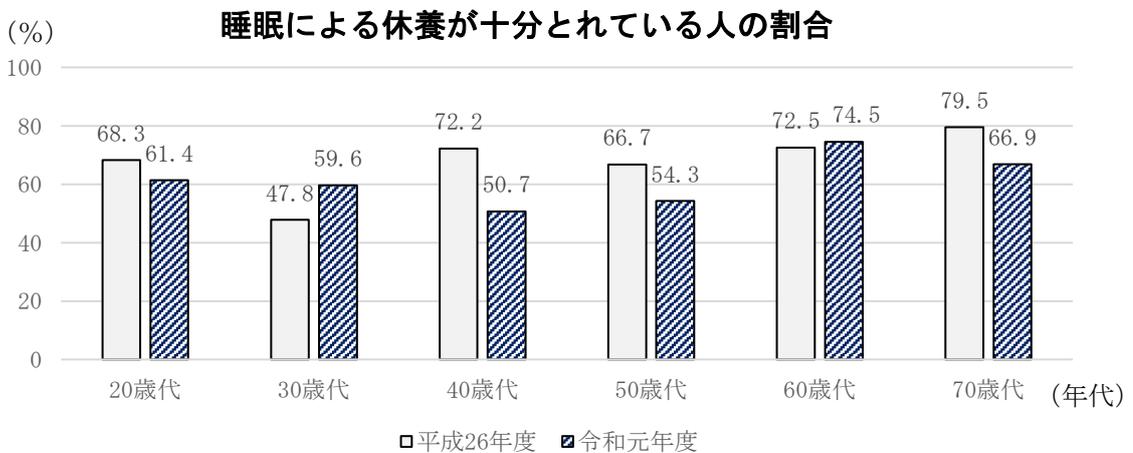
*1～5 は平成 26 年度健やかほうふ 21 計画（第二次）策定のためのアンケート、
令和元年度健やかほうふ 21 計画（第二次）中間評価のためのアンケート

*6 は、市健康増進課調査

【評価ごと達成割合】

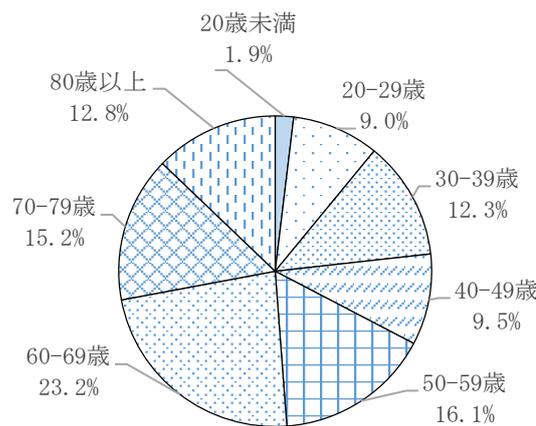
評価	項目数	割合
A（目標達成）	4	21.1%
B（改善しているが、目標に達していない）	7	36.8%
C（変わらない）	1	5.3%
D（悪化している）	7	36.8%
E（設定した目標又は把握方法が異なるため評価困難）	0	—

<その他関連する市民の現状>



資料：平成26年度健やかほうふ21計画（第2次）策定のためのアンケート
令和元年度健やかほうふ21計画（第二次）中間評価のためのアンケート

防府市の自殺死亡者の年代別割合（平成21年～平成29年）



資料：厚生労働省 地域における自殺の基礎資料
平成21年～平成29年 防府市の自殺者の合計

<分析>

【改善傾向】

- ・〔指標〕自分なりのストレス解消法を持っている人の割合は、20歳代女性、40歳代男性が目標に達しています。
- ・〔指標〕自分のことが好き、まあまあ好きな人の割合は、高校生の男子を除いて増加しており、中学生男子は目標に達しています。
- ・〔指標〕ゲートキーパー養成講座を受講した人は、目標に達しています。

【維持または悪化傾向】

- ・〔指標〕自分なりのストレス解消法を持っている人の割合は、20～30歳代男性、40歳代女性が減少しています。各年代を比べると、30～40歳代女性が他の世代に比べ低くなっています。
- ・〔指標〕困った時に相談できる人の割合（男性）は、高校生と50歳代で減少しています。
- ・〔グラフ〕睡眠による休養が十分にとれている人の割合は、20歳代、40～50歳代、70歳代で減少しています。
- ・〔指標〕心の悩みについて相談できる窓口を知っている人の割合は、減少しています。
- ・〔グラフ〕自殺死亡者の年代別割合をみると、60歳以上の高齢世代が51.2%と半数を占めています。また、30～50歳代の働く世代も37.9%と4割程度を占めています。

今後取り組むべき課題

- ・働く世代は悩みやストレスを抱える世代であり、職域と連携し、自分の心の状態をチェックし、自分に合ったストレスへの対処方法を見つけられる取り組みが引き続き必要です。また、身近な人の心の不調に気づくための取組が必要です。
- ・自殺者数が多い高齢者世代へは、関係課や関係機関の見守り体制を強化することが必要です。
- ・中・高校生が困ったときに相談できるよう、関係機関が連携し、体制を強化することが大切です。
- ・ゲートキーパー養成講座を受講した人の数は目標を達成しましたが、今後も関係各課や関係機関と連携し継続して取り組む必要があります。

指標の見直し

- ・「困った時に相談できる人の割合の増加（男性）」に自殺死亡者年代別割合の高

い60～70歳代を追加します。

- 心の不調と関連がある睡眠は、市民の心の健康の状態を知る指標となるため、「睡眠による休養が十分とれている人の割合」を追加します。年代は課題である40歳代、50歳代とします。
- ゲートキーパー（ココロぽっとサポーター）養成講座を受講した人の人数は目標値に達し、今後も講座を開催するため、目標値を変更します。

(7)地域のつながり

【目標：世代を超えて交流を深めていこう】

市民の目標

まずは「みんなであいさつしよう」

次に「地域で“おたがいさま”の関係をつくろう」

さらに「地域で見守る目を持とう」

計画策定時からの主な取組

● 地域・市の取組

- ・地域のつながりは、健康づくりの土台です。そのため、各分野で、各関係機関が、地域で世代を超えて取組を推進しました。
- ・あらゆる機会を通じて、健康づくりの推進には地域のつながりが欠かせないことを、周知しました。

中間評価

<評価指標の達成状況>

チェック項目（評価指標）		策定時 (平成 26 年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和 7 年度)	中間 評価
1 地域の人とのつながりが強いと感じる人の割合の増加	妊婦	20.7%	23.6%	40%	B
	乳児の保護者	25.3%	27.8%		B
	年長児の保護者	35.0%	33.8%	50%	D
	成人	32.8%	27.1%		D
2 近所との関係づくりが必要と感じる人の割合の増加	妊婦	83.3%	83.6%	90%	C
	乳児の保護者	85.5%	75.0%		D
	年長児の保護者	83.3%	76.3%		D
	成人	78.5%	70.6%		D
3 就労、ボランティア活動、地域活動、趣味・おけいこ事をしていない人の割合の減少	成人 男性	15.8%	20.1%	10%	D
	成人 女性	20.1%	24.8%		D

*1、2は、平成 26 年度健やかほうふ 21 計画（第二次）策定のためのアンケート
令和元年度健やかほうふ 21 計画（第二次）中間評価のためのアンケート

*3は、平成 26 年度、平成 29 年度健康づくりに関する県民意識調査

【評価ごと達成割合】

評価	項目数	割合
A（目標に達している）	0	0%
B（改善しているが、目標に達していない）	2	20.0%
C（変わらない）	1	10.0%
D（悪化している）	7	70.7%
E（設定した目標又は把握方法が異なるため評価困難）	0	—

<分析>

【改善傾向】

- ・〔指標〕 地域の人とのつながりが強いと感じる人の割合は、妊婦と乳児の保護者で増加しています。

【維持または悪化傾向】

- ・〔指標〕 地域の人とのつながりが強いと感じる人の割合は、年長児の保護者と成人で減少しました。
- ・〔指標〕 近所との関係づくりが必要と感じる人の割合は、子育て中の乳児の保護者と年長児の保護者、成人で減少しています。
- ・〔指標〕 策定時と同様に、近所との関係づくりが必要と感じる人の割合より、実際に地域の人とのつながりが強いと感じる人の割合は低い現状にあります。

【今後取り組むべき課題】

- ・乳児の保護者、年長児の保護者において、近所との関係づくりが必要と感じる人の割合が減少しているため、世代や時代に応じたアプローチ方法を検討していく必要があります。
- ・各分野の取組を推進する中で、地域のつながりは健康づくりの土台であるということを、さらに伝えていく必要があります。

【指標の見直し】

- ・特に必要なし

3 庁内関係各課の主な取組

